

ストーマ外来の新型コロナウイルス感染予防対策について

8月に災害対策委員会都道府県代表の皆様へ現状調査をお願いし、全国32県より回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。それぞれの状況のなかで実施されている対応策をご覧ください、お役立ていただければ幸いです。

1 予約について

①ストーマ外来運営の工夫

「通常通りの予約体制で運営しており、経過観察で受診間隔を延長できる患者の場合には延長している」という回答が多い

- ・緊急性の高い場合や術後初回の場合には、ほとんどの施設が対応している
- ・基本的には病院方針に従っており、来院者が窓口トリアージを済ませている場合は通常通り実施した
- ・緊急事態宣言の際は個別に予約をキャンセル、延期をしたが、現在は通常通り
- ・「医師の診察日にストーマ外来を実施し、不要な来院を防ぐ」という意見と、「密にならない医師の外来診察のない午後に設定している」「感染対策の励行のために時間的余裕が必要なことから、後日午後に日程を調整して来院してもらうことが多くなった」とした意見がある。また、予約人数の制限がかかった施設では、通常の前予約設定期間より延長するケースが増え、ストーマ外来開設日に電話相談も可能な旨を患者に伝える対応している。

②定期受診の延期などを実施した施設の声

非常事態宣言の時期に定期受診を延期した患者がいると回答した施設が多い

- ・患者さんから希望のあったときは延期した。ストーマ外来を受診される患者さんで安定している方は、医師と本人家族と相談して受診間隔を延ばすようにしている。予約延長した患者については、問題があればすぐに連絡するよう指導する。定期受診の間隔を延長したせいかトラブルが増加傾向などの意見があった。

③その他

- ・施設入所中の方は、施設側の取り決めで外出（受診）できない方もあり、ケアの相談は電話やメール（当事者の承諾のもと）で対応
- ・診察が長時間にならないようにしている
- ・予約時間の間隔を広げた。受診の30分以上前に院内に滞在しないようお願いしている

2 相談体制について

①電話対応を実施した施設の声

- ・新型コロナ対策として受診間隔を延長していることを説明、安定している患者は電話相談
- ・トラブルが生じた場合は電話対応し、解決できない場合は受診とした
- ・病院には来院したくないが相談はしたいという方に、電話相談をストーマ外来の時間に実施
- ・病院外来または皮膚排泄専従者に電話をもらい対応、内容で急ぎのケアが必要な場合は来院または在宅患者訪問指導料3（WOCN 同行）の利用
- ・週1回、電話対応できる日を設定し、患者に連絡を行い、可能な限り電話で対応をしている

②画像指導を実施した施設の声

- ・外来では装具交換を実施せず、自宅撮影したストーマの画像を閲覧しながら相談対応に応じている
- ・可能であれば写真を持参してもらい、写真上でのアドバイスを行えるよう調整中だが、高齢ストーマ保有者のみの場合は難しいと感じる

③他施設・訪問看護との連携の工夫

- ・施設、他病院にいる患者には、看護師や施設職員と電話で相談対応を行っている
- ・施設や訪問看護からの相談は、状況を確認し必要時ストーマ外来受診とし、他は写真を転送や郵送してもらい対応策を伝えている
- ・院内の訪問看護からの相談は、担当者から直接連絡があり患者の自宅に対応する、帰院後のカンファレンスで相談するようにしている

3 同行者の対応について

- ・来院者すべてに検温・コロナ関連問診等は病院体制に準じ、同行者は1名としている回答が多い
- ・原則、患者のみの入室とし、ケア実施者が患者と異なる場合には同席してもらい、可能な限りソーシャルディスタンスを確保する
- ・セルフケアができていない患者や、理解力が良好な患者の場合は、同行者の外来への入室を遠慮いただくことについて提案（希望があれば入室・同席拒否はしない）。同行者の入室を遠慮頂いた場合は、ストーマ外来終了後、口頭にて説明。必要があれば（ケアの変更やスキントラブルなど）写真等を見せ説明

4 個人防護具

ほとんどの施設で個人防護具（ディスポエプロン、プラスチック手袋、マスク、フェイスシールド・ゴーグル等）を装着し感染対策を講じている

- ・最近になってアイガードをするように指導がされているが、飛散防止のシートなどの設置はない
- ・マスク、手袋での対応のみで、ゴーグル対応は義務付けられておらず、自己判断する
- ・トリアージでコロナが疑われない患者は体液・排泄物と接触する標準予防策対応
- ・ディスポエプロンの不足により1患者1枚ではなく、1日1枚という施設もある
- ・長袖エプロンが入手できずロング手袋を使用、また、フェイスガード、ゴーグルが入手できなかった時は、花粉用眼鏡を活用
- ・PPEは病棟でも足りずゴミ袋などを使用しており、外来にまわせる余裕はなかった。そのときはリスクがあるが、サージカルマスク、手袋のみで実施した
- ・ゴーグルやフェイスシールドは施設で枚数制限もあり必要に応じて使用した
- ・使い捨ての長袖ガウンを使用していたが、ガウン不足のためストーマ外来では使用しないよう指示があり、4月～現在までガウン等無しでストーマケアを行っている。

5 感染予防のためのケアの工夫

- ・体温、体調の確認、患者にマスク着用、手指消毒を義務付け
- ・受診2週間前に他県への移動等なかったか確認。外来診察前に用紙に体温と渡航歴や県外への往来、県外に滞在歴のある人との接触を記入してもらう
- ・ケアで使用したものは患者毎に洗浄、除菌用ワイプで清掃

- ・装具以外は病院の衛生材料使用（ストーマ用）
- ・基本的には患者の物品（ストーマはさみ等）を使用する。持参が無ければ外来のものを使用し、消毒。ストーマ外来の洗浄剤や被膜剤などの使用は極力避け、基本的には患者持参を依頼し使用
- ・ストーマサイズ計測時は、ノギスは使用せず、ディスポーザブルのメジャーを使用
- ・新たに使用開始する場合などは業者のサンプルを使用し、基本的に交差使用しない
- ・ケア用品は単回使用するものを選択
- ・クリームタイプの洗浄剤を使用し、洗浄液の飛散を予防
- ・スプレー式の剥離剤を使用している患者には、事情を説明して院内で使用しているワイプタイプの剥離剤を使用している。また、洗浄等は水で流さないタイプを使用している
- ・セルフケア指導が必要な方以外は、すべて看護師が装具交換をしている。家族へ指導が必要な際は、手袋を着用しケアに参加してもらう
- ・排泄物が入っている装具等はビニール袋に入れて密閉し、直ちにハザードボックスに廃棄する
- ・ストーマ装具交換の際は患者に臥床してもらい、患者の口元から距離をとる
- ・ケア時の体位は患者に合わせて決めている
- ・出来るだけ正面で顔を近づけないようにはしている。真正面での対応を避け、横座りで対応
- ・ケア時はなるべく会話を避け、会話時は距離をとって行っている
- ・ケア時間を最小限にし、話が長くなる人は、時間を決める
- ・ストーマの指導やケアは2 m以内になるが、短時間で終わる事を心がけている
- ・感染予防として、患者には診察室入室時・退室時に手洗いと手指消毒を実施（指導）している
- ・入院中のケアについて：新規ストーマ造設後の主介護者へのケア指導のために来院いただく場合は、主治医の面会許可を受け、時間調整している。訪問看護や施設退院の場合、今までは退院前カンファレンスとして多くの在宅スタッフに来院してもらい、ケアを見て一同に会してカンファレンスを実施していた。現在は、どうしても密空間になってしまうことから、動画や写真付きサマリーを多く取り入れるようにして継続ケアに努めている

6 ストーマ外来の環境と除菌対策

患者終了毎に換気し、机、ベッド、椅子、ドアノブ等をアルコールまたは次亜塩素酸で消毒したという回答が最も多い

- ・除菌はアルコールシートにて拭ける物品はすべて拭く。電カルテのキーボードにカバーがあり、その上からアルコールシートで拭く
- ・ドアノブやデスクなどは80%エタノールを含有した除菌シートで拭く。（始まる前と終了時のみ、ドアの開閉はストーマ外来担当者が行う。患者や家族は机にふれない位置に座ってもらう）
- ・次亜塩素酸ナトリウムフォーム、加速化過酸化水素含有洗浄剤を使用
- ・扇風機、空気清浄機や除菌、消臭スプレーを使用している
- ・個室で対応であるが、特別なことが無い限り、カーテンやパーテーションで工夫し密閉を避けている
- ・次の診察まで時間がある場合、診察室出入口ドアを開放しておく。時間調整できる時は、次に入室する患者の間隔を10～15分空けている
- ・除菌クロスでの清拭と換気は、定期的に全館放送が流れ実施している